

# 開口部閉止に伴うリスクの整理

2018年11月29日 東京電力ホールディングス株式会社



## 岡本先生のコメント（9月27日 廃炉・汚染水対策チーム会合）

- 開口部を全て閉止しようとする作業に伴う被ばくのリスクが増大する。このリスクと津波によって漏えいした汚染水による一般公衆への被ばくや風評被害のリスクとの関係は評価できているのか
- 可能な限り対策するという事はリスク管理になっていない。合理的な説明をお願いしたい

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

## 地震・津波対策の進捗状況（開口部閉止に伴うリスクの整理）



### 開口部を閉止せず事後対応とする場合のリスク

- 津波によるFPの漏えいリスク
  - ✓ 建屋滞留水のもつ放射能（Bq）が引き津波により仮に全て流出すると311事故直後と同程度
- 被ばくのリスク
  - ✓ 滞留水の海洋流出が公衆被ばくに与える影響は小さい見込み（国連科学委員会報告書）
  - ✓ 事後対応する従事者の被ばくは大きくなるおそれ
- プロジェクトリスク
  - ✓ 311津波の発生頻度との見合いでは、閉止することが必ずしも合理的とはならないが・・・
  - ✓ 建屋に浸入した津波が新たにリスク源（滞留水）となるため、処理が必要な滞留水が大幅に増加
  - ✓ 追加的な処理費用・期間、タンク設置エリアの逼迫などの不確実性が大きい
- さらなる信頼喪失のリスク
  - ✓ 上記のリスクを残しておくことは信頼をさらに失うリスクを伴う
    - 放射性物質の大規模な放出を再度引き起こした
    - 避け得た従事者被ばくを増やした
    - 滞留水処理が一からやり直しとなった

### 開口部を閉止する場合のリスク

- 被ばくのリスク
  - ✓ 公衆被ばくには影響しない
  - ✓ 閉止のための作業により、数千mSv・人の従事者被ばくが生じる見込み
- 産業安全のリスク
  - ✓ 閉所や重装備による作業で労働災害が生じ得る
- ◆上記のリスクへの対応
  - ✓ 被ばくのリスクに対しては、遮へいや工法の工夫で低減していく余地あり
  - ✓ 作業環境の改善等が進み、1Fにおける産業安全のリスクは低減してきている
  - ✓ 各開口部の閉止を完全なものとしなくても、FP漏えいのリスクやプロジェクトリスクを実効的に低減させるよう検討中（防水区画の位置の変更など）。これにより被ばくのリスク産業安全のリスクを低減していく

結論：開口部を閉止しない場合のリスク抑制を重視し、閉止に伴う被ばくや産業安全のリスクの低減と実効的な流入量抑制を図りながら開口部の閉止を進めていく

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社